

# ストロメクトール<sup>®</sup>錠3mg

- 疥癬と確定診断された患者さん又はその方と接触の機会があり、かつ疥癬の症状を呈する方に使用してください。

## ◆ 疥癬に対する用法・用量 ◆

通常、イベルメクチンとして体重1kg当たり約200 $\mu$ gを1回経口投与する。下記の表に患者体重毎の1回当たりの投与量を示した。本剤は水とともに服用する。

### 〈体重別1回投与量〉

体重 (kg)	3mg 錠数
15 – 24	1 錠
25 – 35	2 錠
36 – 50	3 錠
51 – 65	4 錠
66 – 79	5 錠
$\geq 80$	約200 $\mu$ g/kg

#### 用法・用量に関連する使用上の注意

- (1) 本剤は水のみで服用すること。本剤は脂溶性物質であり、高脂肪食により血中薬物濃度が上昇するおそれがある。したがって、本剤は空腹時に投与することが望ましい。
- (2) 本剤による治療初期にそう痒が一過性に増悪することがある。また、ヒゼンダニの死滅後もアレルギー反応として全身のそう痒が遷延することがある。特徴的な皮疹の発生や感染が認められない場合、又はそう痒が持続しても、特徴的な皮疹の発生や感染が認められない場合には、漫然と再投与しないこと。
- (3) 重症型(角化型疥癬等)の場合、本剤の初回投与後、1～2週間以内に検鏡を含めて効果を確認し、2回目の投与を考慮すること。

- 禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

## 〈疥癬の診断〉

顕微鏡検査でのヒゼンダニの虫体ないし虫卵検出により確定診断する。顕微鏡検査が陰性であっても、臨床症状、疫学的流行状況から疥癬を否定できないときは、再度間隔をおいて顕微鏡検査を実施する。

### 顕微鏡検査

#### 検体採取

疥癬トンネル、新鮮な丘疹、結節等から以下の方法で採取する。

- ・眼科用のハサミで切除する
- ・刃の鈍なメスで引っ搔く
- ・小さなピンセットでこそぎ取る
- ・ルーペを用い消毒した針で取り出す

#### 観察

- ・真菌検査と同じ要領で観察する（クロラゾール・ブラックE染色では糞も染色可能）
- ・虫体またはその一部、虫卵、抜け殻等を検出したら疥癬と診断する（何を検出したかをカルテに記載する）
- ・ダーモスコピーによりヒゼンダニを確認した場合も疥癬と診断してよい



#### 注意

検出率は手（指、指間、手掌等）の疥癬トンネルで高いが、体幹の丘疹では低い。陰性の場合は頻回、複数部位を検査する。  
寝たきりの高齢者や乳幼児では手だけではなく足でも検出率が高い。

### 臨床症状

#### 疥癬

- ・激しいそう痒を伴う
- ・腹部、胸部、腋窩、大腿内側に紅斑性小丘疹等が散発する
- ・手（指、指間、手掌等）に疥癬トンネルがみられる
- ・外陰部、腋窩に小結節を生じることもある
- ・まれに全身に膿疱、水疱、局面等を形成することもある
- ・寝たきりの高齢者や乳幼児では足にも疥癬トンネルが好発する

#### 角化型疥癬

- ・手、足もしくは全身に角層が肥厚し、ざらざらしている
- ・紅皮症を呈することがある
- ・そう痒は一定しない

### 疫学的流行状況

通常、同一施設内で2ヵ月以内に2人以上の疥癬患者が発生した場合を集団発生とする。近隣の集団発生の状況等を勘案する。

監修 九段坂病院 皮膚科 大滝倫子先生